

## 様式2

# 生徒の学習状況についての実態および定期考査等を含む 学力調査の結果等を踏まえた内容別・観点別の分析表

### 【国語】

#### 〈学習状況についての実態〉

- ・漢字の学習方法が定着している生徒とそうでない生徒との差が大きい。特に、漢字の読みには抵抗がないが、漢字の書きには抵抗があり、あまり学習しようとならない傾向がある。
- ・言葉のきまりに関する事項（文法）には、苦手意識をもっている生徒が多い。
- ・音読や暗唱など、声を出すことに対しての抵抗が少なく、積極的に意見を発表することができる。
- ・簡単な問題にはとてもよく反応し、意欲を示すが、情報を整理し自らの言葉で人に伝えようとするに関しては、他人任せにする生徒がでてくる傾向がある。
- ・文学的文章のような心情を読解したり、想像したりすることが苦手である。逆に論理的に思考する説明的文章のほうが得意な傾向がある。

#### 〈都学力調査の分析〉

- ・「話す・聞く」では応用力が弱い。
- ・「言語についての知識・理解」では、漢字の読みはよいが、書き取りに課題がある。また、文法において体言を修飾する語に比べ、用言を修飾する語の理解ができていない。
- ・「読む」では、説明的文章の読解は総じてよいが、文学的文章の読解能力が低い。
- ・「書く」では、材料の分類整理能力に課題がある。

#### 〈全国学力調査の分析〉

- ・事実と考えとの関係を明確に区別して理解する力が弱い。
- ・現代語訳と照らし合わせながら古文の内容を捉えることができていない。
- ・文章の構成や展開、表現の特徴について考える力が弱い。

#### 〈今後の課題〉

- ・「漢字の書き」「文法・語句に関する知識」などの基礎事項を身に付けさせる。
- ・文学的文章読解では、話し合い活動を多く取り入れ他者の考えたことを参考にしながら自分の考え方を豊かにさせる指導が必要である。
- ・自分の意見を筋道立ててまとめ、それを発表できる力を身に付けさせるため、状況に応じた話し方の型や論理の展開、言葉遣いの指導を継続的に行う。
- ・文章や図表などから、その内容を丁寧に読み取り、中心的な情報と付加的な情報に分けたり、取り出したりする力を身に付けさせる。
- ・聞き取る力を伸ばすため、教科書にはない教材も取り入れる。
- ・説明的文章に関して、事実と考えを分けて読み取るなど、丁寧に指導する。
- ・古文に親しみ、古語や歴史的背景に関する知識を深める。
- ・文章読解の際、構成や表現について考えさせ、考えたことを交流するなどしてより一層理解を深める指導が必要である。